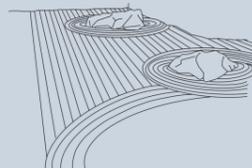


一、落ち着いた心で対峙する日本文化



座禅
己と向き合う



日本庭園
鑑賞で向き合い思索する



盆栽
長い年月向き合ってつくり上げる

二、隙間が持つ力

隙間には、興味と発見と想像を引き出す力がある。

興味 = 隙間の向こうには、今自分がいる空間とは別の世界が広がっている。そこを覗くという行為は好奇心を掻き立てる。



発見 = 「隙間」という限られた情報空間に入ることによって、普段目につかないものに気づける。



想像 = 隙間から見るものは全貌が見えない。そのため見えない部分の想像力を掻き立て、考える力を養う。



三、景峙石

私の記憶に残っているもの多くが、木と木の隙間から見た景色だった。しかし、周りに人がいるとなかなか没入はできない。木々の間からでも隙間の力は感じられたが、「落ち着いた心で対峙する」には行き着いていなかった。

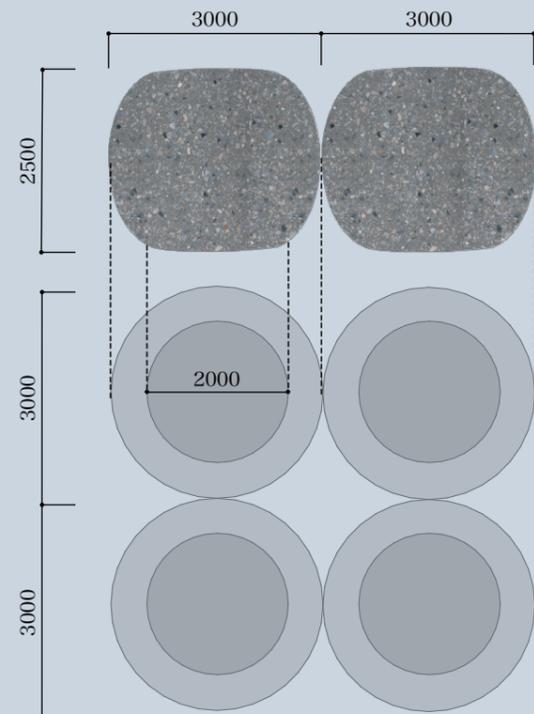


三保の松原



篠栗九大の森

そこで、石で薄暗い小空間と隙間をつくる。4つの石を正方形に内接するように置く。すると、石と石の間には隙間ができる。さらに石を積み上げることで、多様な隙間ができる。



立面図 S=1/100

平面図 S=1/100

プロトタイプ(4つの石)



プロトタイプ+中心1コ



プロトタイプ×2



四、風景と対峙する石空間の隙間

見る対象物以外の情報を視界から排除し、「私と風景」の世界をつくり出す石空間の隙間。そして見ている風景との距離を近づける。

形状の特徴

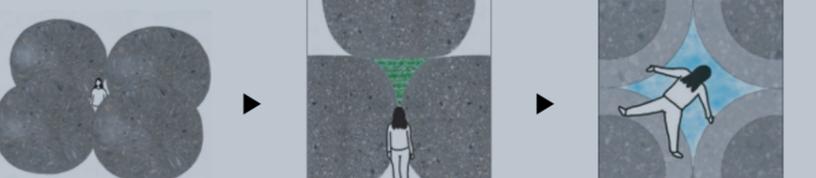
- ①くぐる
- ②4つの石が集まった中心に空間(隙間)ができる
- ③プロトタイプ(4つの石)の上に石を積み重ねると、また隙間ができる

① - 石と石の隙間をくぐる



くぐる体制になることで、アイレベルで見る風景より視線の高さが低くなる。そのため、普段目に入ってくるものが視界からなくなり、**情報量が減る**。また、**地面と近くなり自然との距離が縮まる**。

②③ - 石と石の隙間から見上げる



4つの石の中心にできた小空間から見上げることで風景と対峙する。他人の視線、過度な光・風から守られたこの空間は、**私と石と風景だけの空間になる**。この最小限の空間こそ、**外の空気と自然の音を肌で感じながら風景に没入**できる。

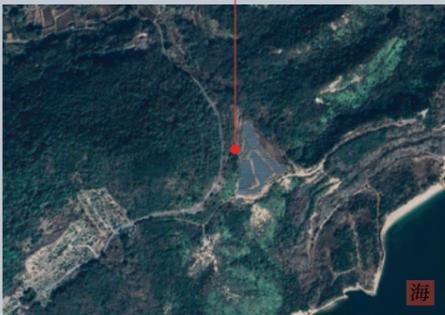
図 / 立って見上げる

図 / 寝転んで空を見る

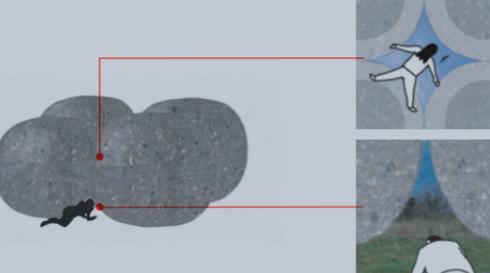
五、敷地：豊島(香川県 小豆郡 土庄町)

海と緑と空が見え、隙間から覗くことでより良い景色との出逢い方ができる地と思い選定した。豊島は「石の島」として知られている。「豊島石」と呼ばれる加工しやすい石が採掘され、石材業が盛んだった。今回の提案は、この豊島石を介して豊島の風景を見る。

敷地 1. 唐櫃 見晴らし休憩所付近



標高約 110m があるため、障害物なく空を見ることができる。



豊島の空

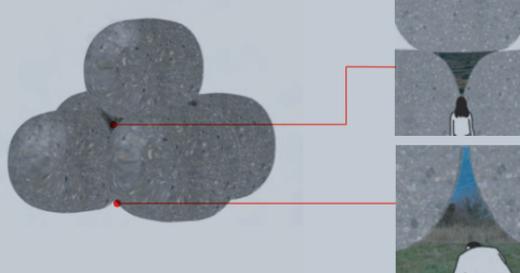


見晴らし休憩所から見る海

敷地 2. 唐櫃・豊島の棚田付近



木々が生い茂る所に置くことで、予想もしない世界(海/棚田)と隙間から出逢う。



中心に立つと見える棚田

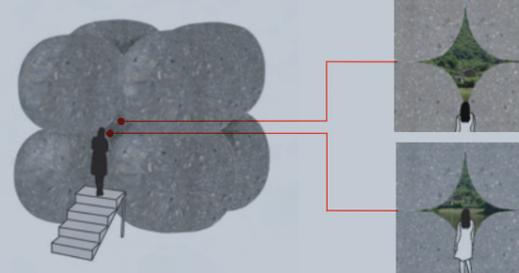


くぐったときに見える海

敷地 3. 棚田から南下した溜池付近



溜池越しの山を、階段を登ったところにある隙間から見る。



登った隙間から見える池と山

中心の石空間から山を見る

階段上から山を見る